

令和6年度 墨田区立東吾嬬小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 藤村 雅彦

学校教育目標	学び 友 遊
目指す学校像	子どもたちが夢や目標をもち、仲間と力を合わせる学校
目指す児童像	学びが好き 友だちが好き 遊びが好き
目指す教師像	指導力を高め、熱意や使命感をもって子どもや保護者、地域に向き合う教師

○令和6年度 学校経営計画における重点内容

- ①子供たちが夢や目標をもち、生き生きと学校生活を送ること。（学力の向上）
②教職員が自己の持ち味や力を発揮し、指導力を高め、日々充実すること。（ライフワークバランス）

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。 ①タブレット端末を活用し各児童の状況に応じた個別学習に取り組ませる。	①ICTとGIGAの各担当を中心にタブレット端末を活用した効果的な個別学習について校内研修を年6回実施する。	4	3	4	4	GIGAスクール構想をベースにしたタブレット端末を学習道具のひとつとして活用することが定着している。どのような学習場面で活用することが有効か、教員も常に意識して指導を行っている。	本年度の校内研究は、「個別最適化学びと協働的な学びの実現を目指す授業づくり」がを研究主題である。その研究成果を、今後の授業改善に活かし、タブレット端末を活用した学力向上を目指す。	A	A	・良い部分の認識、課題に対する具体的な取組がよく理解できた。
			3		3						
			2		2						
1			1								
特別な支援を必要とする子に対しての、組織的な支援等を行う。 ①学習支援員やスクールカウンセラーとの連携を計画的に実施する。	①毎週、特別支援コーディネーターとスクールカウンセラー、学習支援員、特別支援教室「まなび」巡回指導員等との協議会で指導方針等を共有し、連携する。	4	4	4	4	全校体制で、特別な支援を必要とする子の困り感解消に向けて、組織的な支援を意図的計画的に実施してきた。	月1回の特別支援委員会を中心にスクールカウンセラー、特別支援教室専門委員を活用した支援策を校内で共有する。また、発達心理士等専門家を招き、効果的な指導法の助言を活かして全校体制で支援を行う。	A	A	・自分の子供もスクールカウンセラーと面談したが、今も続いている良かった。東吾嬬小は特別な支援を必要とする子にかかわる素晴らしい学校とっています。	
		3		3							
		2		2							
		1		1							
教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。 ①学級の係活動や学校の委員会活動等で様々な役割で長所を発揮させ、長所を活かせる職業等について考えさせる。	①学校経営方針「夢をかなえる力」に基づく学年別理想の姿について、学年指導計画に沿って長所の発揮と職業等の考察を指導する。	4	3	4	4	「夢をかなえる力」についての学年別児童の姿を明確にして、年間を通じて指導した。学年だよりや、保護者会等で情報発信し、地域や保護者の協力を得ることができた。	学校生活のあらゆる機会を通じて、「夢をかなえる力」についての学年別児童の姿を示していく。また、キャリアパスポートを有効活用して、自己肯定感・自己有用感を高めていく。	A	A	・特になし。	
		3		3							
		2		2							
		1		1							
生活指導等	いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。 ①心の問題やいじめ等の前兆を早い段階で把握し、校内委員会で解決までのスケジュールを立て、役割分担を行って組織的に実行する。	①毎日の主幹会で気になる児童の情報を吸い上げ、組織的な対応方針を決定する。次に、校内委員会を事態把握当日に開催し、教職員・スクールカウンセラー、関係諸機関、保護者等との役割分担を決め、組織的に改善・解決に向けて実行する。	4	3	4	4	保護者アンケートで、学校の取組が分からないとの回答が19％あった。学校での未然防止に向けた教育活動をより積極的にアピールする必要がある。また、いじめ防止地域公開講座の参加者を増やしたい。	月1回のいじめ不登校対策委員会や年3回の児童へのいじめアンケート、いじめ防止授業地域公開講座等を実施する。また、家庭や地域と協力し、いじめ不登校等の防止とその早期発見・早期解決を図っていく。	A	A	・先生の業務の負担を軽くし、子供たちとふれあう時間がとれると良い。
			3		3						
			2		2						
			1		1						
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。 ①「挨拶運動」と「生活リズムチェック」等により、基本的な生活習慣の徹底を図る。	①年2回（6月・11月）の児童挨拶マイスターによる「挨拶運動」、年3回の保護者との連携による「生活リズムチェック」を中心に、年間を通じて基本的な生活習慣の徹底を図る。	4	4	4	4	挨拶運動や標語活動は、挨拶について考え、実行する機会となった。夏休みや冬休み明けに「生活リズムチェック」を行うことで基礎的な生活習慣の向上を図ることができた。	たてわり班で1年生から6年生まで、挨拶運動に参加した経験は、挨拶をし合うよさを実感できた。今後も、自ら挨拶をする意識を高める挨拶運動を継続していく。また、日常的に実践できるようにしていく。	A	A	・本当にどこでも挨拶できる良い子供たちです。 ・駅前でのあいさつ隊がなくなったが、あると良い。
			3		3						
			2		2						
			1		1						
	危機回避能力の育成や子どもの安全を確保するための取組等を行う。 ①交通事故等の日常の危険から大地震などの自然災害まで、被害の未然防止や減災行動について児童の実行力を高める。	①毎月の安全指導・避難訓練を計画的に実施し、交通事故や火災等の身近な事故や災害、地震・台風等の自然災害について、事故・被害の未然防止や減災について指導する。	4	4	4	4	①児童評価で、「学校や身近な地域で事故に遭わないように注意している」や「災害の際、自分がすべきことを分かっている」等の肯定的回答が80％以上	毎月計画した避難訓練に、児童は真剣に取り組んでいた。また、交通安全教室を全学年で実施した。朝の登校や下校の安全指導も着実に、交通安全の意識をもたせている。	避難訓練は、消火器訓練や起震車体験などの防災体験を年間計画に基づいて実施していく。地域の警察署や消防所、区役所防災課と連携した防災教育を進めていく。	A	A
3			3								
2			2								
1			1								

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標			分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価				自己評価	改善方策	意見等		
学校の管理運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。 ①職務の効率化等を図り、教職員が教材を研究する時間や児童に寄り添う時間を十分に確保する一方で時間外労働を縮減し、教職員のライフワークバランスを向上させる。	①毎月末に教職員の1ヶ月の勤務状況を確認し、勤務時間に関して悩み等のある教職員に対して管理職層が相談にのり、改善策を指導・助言する。	①教員アンケートで「職務への取り組み方や勤務時間のコントロールについて、管理職層からの確な指導・助言を受けることができた。」等の肯定的な回答が90%以上	3	4	①教職員評価で、ライフワークバランスに関する設問への肯定的回答が80%以上	4	職員会議等資料のペーパーレス化は、会議や準備時間の短縮化につながった。ICT活用で、業務を見直し改善につなげている。	ライフワークバランスに向けた教職員の意識をより高め、教材研究に費やす時間や児童に寄り添う時間を十分に確保し、質の高い教育活動を充実させる。	A	A	・特になし。		
			3		80%以上								3	70%以上
			2		70%以上								2	60%以上
			1		70%未満								1	60%未満
	子どもの実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。 ①区学習状況調査等により児童の学習状況の実態を把握して授業改善プランを作成・実行し、成果を学校評価で検証する。	①6月の区調査結果を受け、7～8月に授業改善プランを策定、9月から授業改善を進める。改善状況を毎月の授業観察や小テスト等の定着度測定等に基づいて把握し、課題については改善策を立てて実行する。	①教員アンケートで「授業改善プランで児童の実態に合わせた目標を設定し、授業を改善できた。」等の肯定的な回答が90%以上	3	4	①学校評価で、授業改善に関する設問への肯定的回答が80%以上	4	各種調査等の結果を分析し、9月に学力向上プランを作成した。学年全体で取り組む課題を明確にし、課題解決のための具体的な取組の共通実践を行った。	各種調査等の結果を踏まえた学力向上プランや体力向上プランを作成し、PDCAサイクルによる改善を図っていく。	A	A	・特になし。		
			3		80%以上								3	70%以上
			2		70%以上								2	60%以上
			1		70%未満								1	60%未満
	適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ①GIGAスクールのための物品・ソフト等を充実させ、学校でも家庭でも、児童がタブレット端末等を活用できるデジタル環境を整える。	①4月に予算を立て、年間指導計画に基づいて購入、導入、活用を図る。	①教員アンケートで「GIGAスクール構想のための物品・ソフト等を計画的に導入し、活用できた。」等の肯定的な回答が90%以上	2	4	①児童・保護者評価で、タブレット端末活用のための環境・設備についての肯定的回答が80%以上	4	授業でよく利用するソフトの使用法は、校内研修を通じて共有できた。また、タブレット端末を日常的に授業や家庭学習、家庭との連絡等で活用中である。	GIGAスクール構想に基づいて、デジタル教科書やソフト等を充実させ、児童がタブレット端末を活用して学習できる環境を整備していく。	A	A	・今後も子供たち、先生方のためにより良い環境を目指していったいただけたらと思います。		
			3		80%以上								3	70%以上
			2		70%以上								2	60%以上
			1		70%未満								1	60%未満
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。 ①土曜授業、学校公開、体育学習発表会等を公開し、学校の理解促進を図る。	①年6回の土曜授業、2回の学校公開、10月の体育学習発表会等の機会に保護者・地域を招き、教育活動の理解促進を図る。	①教員アンケートで「年間計画に基づいて公開を実施できた。」等の肯定的な回答が90%以上	4	4	①保護者アンケートで、学校からの情報提供や公開に関する設問への肯定的回答が80%以上	4	体育学習発表会をアフターコロナの状況を鑑み、運動会として開催した。9月の土曜授業は地域行事との関係で、児童や保護者、地域の方が参観できるよう日程変更した。	学校公開や土曜授業等、保護者が参観できる機会を増やしていく。また、学校ホームページや学校だより等を積極的に活用し、常に最新情報を発信する。	A	A	・アフターコロナの学校運営、本当にありがとうございます。		
			3		80%以上								3	70%以上
			2		70%以上								2	60%以上
			1		70%未満								1	60%未満
	保護者の理解や協力を得た教育活動を行う。 ①タブレット端末による家庭学習について、保護者との連携をいっそう充実させる。	①毎日、児童にタブレット端末を使う家庭学習課題に取り組ませるとともに、保護者に学習の支援を依頼する。	①教員アンケートで「保護者との連携で、タブレット端末を活用した効果的な家庭学習に取り組ませることができた。」等の肯定的な回答が90%以上	3	4	①保護者評価で、GIGAスクール構想に関する設問への肯定的回答が80%以上	4	学年に応じたタブレット端末を使った家庭学習で、児童の活用の様子を保護者の方に見ていただいた。また、活用方法も工夫や改善に努めている。	タブレット端末を活用した家庭学習の提供や保護者との学校連絡・情報共有サービスCOC00を活用した情報発信を今後も確実に行っていく。	A	A	・特になし。		
			3		80%以上								3	70%以上
			2		70%以上								2	60%以上
			1		70%未満								1	60%未満
	地域の理解や協力を得た教育活動を行う。 ①学校運営連絡協議・PTAとの連携により、地域の人材や教育資源を活かした教育活動を行う。	①6年生の学校ハローワークに地域の方を講師として招き、職業講話をして頂く等の学習活動を、学校運営連絡協議会・PTAとの連携により実施する。	①教員アンケートで「学校運営連絡協議会やPTAとの連携により、地域の人材や教育資源を活かした教育活動を行うことができた。」等の肯定的な回答が90%以上	3	4	①学校評価及び保護者評価で、保護者や地域との連携に関する設問への肯定的回答が、80%以上	4	地域の企業や人材、保護者、外部団体に協力いただき、教育活動を充実させることができた。これまでの本校での豊富な交流実践を活かすことができた。さらに充実させていきたい。	学校運営連絡協議会やPTAと連携し、地域の人材や教育資源を活かした教育活動のさらなる充実を図っていく。	A	A	・益々活気のある学校になることを期待しています。		
			3		80%以上								3	70%以上
			2		70%以上								2	60%以上
			1		70%未満								1	60%未満

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）

- ・子供たちが夢や目標をもち、生き生きと学校生活を送れること（学力向上）と、教職員が自己の持ち味や力を発揮し、指導力を高め、日々充実すること（ライフワークバランス）を、引き続き学校経営の重点とする。
- ・今年度の成果と課題、今後の改善方針について、学校運営連絡協議会で御理解いただいた。今後も東吾嬬小の歴史と伝統、特色を活かしながら、地域や保護者と協力し、子供たち・教職員・保護者・地域にとって、満足度の高い学校運営を行う決意である。